奉仕しよう みんなの人生を
豊かにするために

2021～2022

THE ROTARY CLUB OF PORT NAGOYA

Weekly Report

名 古 屋 み な と

承　認　1966 年　5 月 12 日 例会日 金曜日 12：30
例会場　名古屋マリオットアソシアホテル
事務局　TEL 052-221-7020　FAX 052-221-7023
E-Mail office@portnagoya-rc.com
URL http//www.portnagoya-rc.com
会　長　栢森　雅勝　　幹　事　岡田　雅
広報・雑誌・会報委員長　長瀬　廣幸

SERVE TO CHANGE LIVES.　奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために　R.I. 会長 シェカール・メータ

第 2615 回例会　No.12
2021 年(令和 3 年 12 月 10 日(金) 晴
「手に手つないで」

出席報告

会員 60 名中　出席 45 名　出席率　75.00%
〇スピーカー
親睦活動委員 副委員長　　松本　久君

会長挨拶

会長　栢森　雅勝君

ＤＸ
デジタルトランスフォーメーションとは

ＤＸとは？
ＤＸ デジタルトランスフォーメーションとは、「企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること」と説明されています。しかし、ＤＸ化という言葉が流行言葉になってしまったために、様々なところで多様な意味で使われるため、言葉を説明するのではなく、ここまで至る変化から今の変化を説明していきます。

デジタル化による社会変化
『デジタル化』で様々な世の中の変化が表現されてきました。
これまで過去に言われてきたデジタル化には、
①コンピューター制御（メカ制御からの変化）
②通信／コミュニケーション
（電子メール、インターネットの普及）
③小売りのデジタル化（ネットショップの普及）
④メディアのデジタル化
（音楽、動画、書籍、TV ゲームのネット配信）
⑤サービス供給の個人化
（ネットオークション、ウーバー、まとめサイト、ユーチューバー）
⑥キャッシュのデジタル化
（電子決済、信用スコア、ネット投資・運用、少額融資や保険）
⑦対面のデジタル化
（ズームなど　オンラインでの会合、ネットで対面教育）

今起こりつつある変化とは？
今起こりつつあるＤＸ化は、
ドローン、ＡＩ、ビッグデーター、人とモノの情報化
ドローン:特徴は自立して行動可能な点とネットワーク接続。
それでコンピューターの能力をどこでも利用可能になった
ＡＩ:強みを発揮できるのは、画像認識、音声認識、データー解析
なんでも出来る技術ではないが、出来る領域が広がった。従来のルールに変わって、学習によって結果を導く技術
ビッグデータ:ネットを通じて容易に大量のデーターを得て、強力なコンピューターでデーターを解析する
人とモノの情報化:センサーとネットワークの利用で、人やモノの動きを情報化して、新しい価値を生み出す

ドローンについて①
ドローンの一般的なイメージというと「カメラを積んだおもちゃ(ラジコン)」だと思いますが、ドローンが本当に凄いところは、それが「現実社会で自在に移動できるデバイス」であることです。
コンピューターは非常に便利な装置でしたが、昔からコンピューターの環境に人間が合わせていかなければならないものでした。入力もパンチカードからキーボード・マウスやバーコードなどの特定の装置が必要でした。ネットワークが普及しても、自在に動き回るにはほど遠い状況でした。
ドローンは、それまでのセンサーや無線、省電力で高性能な演算装置、ロボット技術の蓄積があって、ついに世に登場したデバイスです。現実世界を自由に動き回れるということは、畑や田んぼ、敷地内、建築現場など人を使ってしか情報を得ることが出来なかった場所でもコンピューターが利用できるようになったことを意味します。

ドローンについて②
ドローンは社会を変える。
①今まで機械が入れなかった現実空間へ自在に入ることが可能になった。それこそ１次産業の田畑・山林や屋外作業の建築・土木、工場など敷地内を自由に移動可能に。また技術者が必要な現場作業でも、技術者が現地に入ることなくリモートで作業が可能になる。
②多くの仕事の流れは、1:現状確認 2:通常と異なれば詳細にチェック 3:必要な手段を講じる というものがあるが、ドローンによって 1:現状確認は人を使わずに出来るようになる。そうすれば人のスキルは 2:以降に集中することで効率が数倍にアップする。
③人では入ることが出来ない場所、人では関知できない変化に使用可能

ある用途では、人に代わり、人を超えることが実現するデバイス。
それがドローンの将来性！

ＡＩについて
ＡＩ研究者曰く、「ＡＩとは、技術の確立していない分野に使われてきた言葉」だと。つまり、生物や人間の持つ機能を実現しようと試行錯誤してきたのがＡＩ(人工知能)という分野。しかし、今一般的には、ＡＩとは主にディープラーニングによって実現した技術を表現する言葉として使われています。近年大きく発達したのは、「画像認識」「音声処理」「データーマイニング」です。

ディープラーニングの特徴は、ニューラルネットワークと学習です。過去知性の機械化として、ルールベースのエキスパートシステムがもてはやされたことがありますが、全ての事象をルール化することは現実的ではありませんでした。それに代わって、ディープラーニングでは、入力と結果を評価し、フィードバックすることでモデル化をします。それが従来は出来なかったことに対して、良く機能することに気づいたと。万能ではありませんが、これからの発展と応用が楽しみな技術です。

ビッグデータについて
ネットワークが一般的になり、データーの収集・保存・処理が容易に行えるようになった現在、ビッグデータという言葉が使われるようになりました。従来との違いは、ひとつの企業が持つデーターではなく、多数の人が使うソーシャルメディアの動向解析やモノのインターネット化によって集まってくる多数の情報、または様々なデーターを組み合わせて利用することなどをビッグデータと呼ぶようになりました。
中には飛行機のようにフライト中のあらゆるデーターを記録し、壊れる前の整備に役立てること巨大なデータを扱うことから、そのような使い方もビッグデータと呼ばれます。
ただし、コンピューター科学の世界では、『ゴミを入れても出てくるのはゴミ』という格言が昔からあって、データーさえあれば何か出てくるというのは都合の良い妄想に過ぎません。

人とモノの情報化について
モノのインターネット化は、IoT(Internet of Things)とも言われています。従来のインターネットのイメージと異なり、様々なモノがネットワーク接続機能を持ち、大量のデーターが集まってくることを表現しています。それは、今から２０年ほど前に「ユピキタス社会」が提唱され、日本で情報化社会の実現を目指した国策が作られています。今は当時の未来像が現実になった状況と言えるし、変化が早いと言われるＩＴでも普及して一般化するには２０年かかったとも言えるでしょう。

IoT により情報化された社会で、どのようなものが出てきたでしょうか？
①車で、移動時間の算出や災害時の通行可能道路の情報、駐車場案内
②携帯で、駅の利用人数や人出・混雑の調査
③マラソンなど競技の状況確認や結果記録、スポーツのパフォーマンス確認
④位置情報を使って、交通機関や施設などのＩＴによるエージェント(案内と手配)
⑤位置やＶＲ、マーカーなどを使った観光案内や新しい体験提示

これから起こる変化
これから起きる変化とは、今までの物の流れを中心とした構造から情報の流れを中心とした構造に変わっていくこと。
農業で例えると、“従来は作付面積を決めて、育成・収穫した農作物を出荷する。それは農協に集められて、流通網を通じて運ばれ販売されて、消費者によって食べられる” もし情報が核になれば、“消費動向を元に予測された作付面積が決まり、ドローンで育成状況を管理して、それと需要とマッチングされ、店頭に並べられることなく必要な人の所へ届けられる”へと変化する。

ＤＸとは言い換えると、社会活動は人・物・金と言われ、人と物を動かすために戦略やＰＲが行われていましたが、ＤＸ後はまず情報が流れ、それに人・物がついて動いていく社会。 だから映画を見るのに席を予約するのではなく、見たい映画を選択しておけば、リクエストの人数によってシアターが割り当てられて、その施設までの交通機関が手配されるような柔軟で効率的な活動への変化。

例：スマートシティ
情報を都市インフラとして捉えた次世代都市、スマートシティがすでに世界各地で作られている。 情報を都市インフラに組み入れることで、それは必要な時に必要なモノが得られる、便利で効率的な環境が出来上がる。

国土交通省ではスマートシティを「都市の抱える諸課題に対して、ICT 等の新技術を活用しつつ、マネジメント(計画、整備、管理・運営等)が行われ、全体最適化が図られる持続可能な都市または地区」と表現している。
※野村総研 2019 年５月「スマートシティ報告書」
https://www.nri.com/-/media/Corporate/jp/Files/PDF/journal/2019/20190426_.pdf?la=ja-JP&hash=044467300E0FB6503A84F275CA2AEAA0649BE482

これまで起きた変化（デジタル化）
①コンピューター制御（メカ制御からの変化）
機械の一部を交換して異なる動作をさせるという制御は昔からありました。よく知っているものではオルゴールがあり、産業革命の中で 1801 年に開発されたジャカード織機は、一連のパンチカードによって針の動きを制御してカードのパターン通りの模様を織るものでした。
メカによる制御は、コンピューターの発達によってソフトウェアやデーターによって動きを変えることが出来るコンピューター制御へと変わっていきました。
工作機械では、パンチカードによる数値制御から１９６０年代にコンピューターによるＮＣ制御が登場し、小さなマイコンが世に登場すると１９７０年代末にはマイコンが自動車のエンジン制御に使われるようになりました。

②通信／コミュニケーション
（電子メール、インターネットの普及）
個人が自宅から電子メールを使う、インターネットで情報を集めるのが一般的になったのは、１９９５年の Windows95 が登場してから。
それ以前に自宅のＰＣから通信を行うパソコン通信が１９８５年から登場していたがそのサービスは会員に限定されたものであった。商用のインターネットプロバイダーが日本で始まったのは１９９２年であった。
その後コミュニケーションツールは、２００４年登場の mixi、２００８年登場の Facebook 日本語版、２０１０年 Instagram 登場、２０１１年Ｌｉｎｅ登場、２０１２年 zoom 登場。　利用されるデバイスもＰＣからスマホへと変わった。
最初は文字だけの交換であったものから、多数への発信、画像の共有、スタンプや音声・動画、そして多数参加のコミュニケーションツールへと発展し、今や普通に使われるサービスとなった。

③小売りのデジタル化（ネットショップの普及）
Windos95 によって始まったインターネットの急速な普及してすぐにネットでショップを始めようという動きも起こっていた。しかし、今につながる大きな動きとなったのは、１９９５年に設立されたアマゾンであり（アマゾンジャパンは１９９８年)、その後を追って設立された楽天市場である。
アマゾンは最初は書籍とＣＤを中心に販売を開始し、楽天は乱立気味となっていた数々のネットショップを束ねるＥＣサイトとして開始した。
ネット販売は年々増え続け２０１９年に 19.3 兆円となった。
驚くべき事は、ネットオークションやフリマなどの個人間取引が、２０１９年には 1.7 兆円の規模となっている。

④メディアのデジタル化
（音楽、動画、書籍、TV ゲームのネット配信）
“デジタル化“というと良くイメージされるのがこれ。
ＴＶ、ラジオ、新聞・雑誌などの既存のメディアはインターネットで置き換わっていき、放送メディアの収益源であった広告収入も 2020 年にはインターネット広告がＴＶ広告を上回っている。
２０２１年２月の電通の発表によると国内の総広告費 6 兆 1594 億円のうち、ＴＶ広告が 26.9%、インターネット広告が 36.2%、その他のメディアによらない看板やチラシなどの広告が 27.2%となっている。
また、総務省発表の「コンテンツの世界市場･日本市場の概観」によると 2018 年で既存流通とネット配信を比較すると、世界では既存流通 79%でネット配信が 21%、日本では既存流通が 74%でネット配信が 26%となっていて、日本ではすでにコンテンツの 1/4 がネットで流通している。

⑤サービス供給の個人化
（ウーバーイーツ、情報サイト、ユーチューバー）
“サービスは企業が提供するもの“ということもネット取引の発展で変化し、”個人が提供するもの”が拡大しています。　この新しい形の取引で企業の役割は、サービスを仲介し宣伝する部分を担っています。
昔でも、飲み屋とか軽急便では個人が代理店契約を会社と交わし、実績に応じて収益を分け合うというものがありましたが、インターネット時代のサービス仲介はかなり広い範囲にまで広がりました。
例えば、ウーバーイーツは食の宅配サービスを、情報サイトは世の情報を見やすくチャンネル化し、ユーチューバーは番組コンテンツを作り、提供しています。
これはサービス業の在り方を変える動きですが、一方で雇用-非雇用関係がなく、個人を保護する仕組みがない点もよく話題になっています。

⑥キャッシュのデジタル化
（電子決済、信用スコア、ネット投資・運用、少額融資や保険）
電子マネーと言われていますが、この分野で一番進んでいたのは中国のアリババでした。それは個人の決済、資産運用を包括的にサービスし、企業には個人の信用スコアを提供する仕組みでした。
個人の決済、資産運用を包括的にサービスするアリババは、本当に現金を不要にするもので、店舗やネットでの支払いのみならず、個人間のお金のやりとりも可

能で、ちょっとお金が足りないときの少額融資機能を持ち、保険の加入や余裕資金があるときにはちょっと投資も可能な金融商品の取り扱いも可能でした。
また、取引をする企業にはマーケティングツールとして対象となる個人向けのメールやポップアップメッセージを表示し、個人の資産や決済情報その他をまとめた信用スコアに応じた付加サービスなどを通じ、良い客に来て欲しいという企業の要望にも応えています。

⑦対面のデジタル化
（Zoom などオンラインでの会合、ネットで対面教育）
コロナ渦が世界を覆い、感染の拡大を防ぐために人の交流が極端に制限されました。とはいえ、人が動かなければ社会も回っていかないということで、対面に替わるツールとして Zoom などオンラインでの対面や会合が一般的に使われるようになりました。また学校などでは教室での教育に替わってオンラインでの授業が利用されました。

技術的には、従来でも可能であったのですが、遠隔地をつないでの会議などの限られた利用であったものが一気に普及して一般的に使われるようになりました。これは新しい発明というわけではなく、社会の方が大きく変わったのです。より広く、より多くの人が使うようになれば、それぞれの要望があり、そこからさらに発展していくでしょう。
だから、今の状況はゴールではなく、変化のスタートです。

ニコ BOX

(忘年家族会を皆様と楽しみたいと思っています。よろしくお願いします)　栢森会長
(二日酔いです)　岡田幹事
(先日の旬果展、沢山の人に来て頂きました。ありがとうございました)　早瀬君
(本年 12 月 31 日をもって退会致します。11 年 6 ヶ月の間、御指導ご鞭撻感謝致します。歴史と伝統のある名古屋みなとロータリークラブの益々のご発展と会員皆様の御健康、御多幸を祈念致します。有りがとうございました)　平松君
(松本君、本日の卓話楽しみにしております)　中井君
(松本久君、本日卓話楽しみにしています)　加藤(昌)君
(遅れましたが、第 1 回「何でもやってみる同好会」にご参加頂いた皆様ありがとうございました。いつもと違う交流ができ良かったです)　橋本(美)さん
(本日は卓話をさせて頂きます。宜しくお願い致します)　松本君

本日合計	21,000 円
累　　計	716,000 円

歳末助け合い募金報告

１２月７日（火）栢森会長、河野社会奉仕委員長が名古屋市役所へ出向き、名古屋市社会福祉協会に「歳末助け合い募金」を贈呈いたしました。
感謝状をご披露いたします。
今回で 28 回目累計 3,636,000 円となりました。
皆様のご協力誠にありがとうございました。

幹事報告　岡田　雅君

①　本日、下半期の会費及び歳末助け合い募金の請求書を配布させていただきました。12 月 28 日までにお振込みいただきますようお願いいたします。

②12 月 24 日開催の忘年家族会につきまして、
お持ち帰りのお土産は、クリスマスケーキではございません。何卒、ご了承ください。

卓話「吉本興業と地方創生」
～ラフ＆ピースな世界を目指して～
親睦活動委員 副委員長　松本　久君

本日は「吉本興業と地方創生」についてお話しさせて頂きます。まず初めに何故私がこのようなお話をするのかいうと、現在吉本興業が運営企画している企業経営者とよしもとタレントとの対談動画配信サービス「CEO ONLINE」に参画させて頂いているからです。すでに４０本以上の動画を配信していて、これからも日本全国の経営者様にご出演頂き、面白くて役に立つ動画をお届けしたいと考えています。
吉本興業は、２０１１年４月から「４７都道府県よしもと住みます芸人プロジェクト」をスタートしました。４７都道府県に芸人と社員を派遣＆定住させ、「笑い」による心のインフラ作りを目指しています。また、来年３月２１日から「BS よしもと」チャンネルが開局します。このチャンネルのテーマとしても「地方創生」を掲げています。住みます芸人が地元ユーチューバーらと共に笑いで地域の魅力を発信していきます。
地元愛知県犬山市の例をあげさせていただきますと、「笑い人力車」で観光客が５年で１４万人増加しました。様々な活動を通じて、①観光客増②移住促進③復興後押し等々に貢献しています。現在、この活動は国内のみならず「住みますアジアプロジェクト」として、７つの国と地域（タイ、インドネシア、マレーシア、ベトナム、フィリピン、台湾、ミャンマー）でも行われています。

もう一つのテーマとして、サブタイトルにさせて頂いた～ラフ＆ピースな世界を目指して～というものがあります。人が笑っているところは一番平和な状態じゃないかと考えています。吉本興業はそこを目指している。笑いを通じて平和な世界を創造したい。日本のみならず世界を視野に活動をしています。
今回、スタートした芸人との対談動画配信サービス「CEO ONLINE」でもすでに多くの経営者に出演頂いています。どの動画も笑いと真面目な話が混在した吉本タレントがインタビュアーならではの面白い作品になっています。まだまだ始まったばかりですが、４７都道府県すべての経営者様に、地方ならではの話を盛り込んだ動画を配信したいと思っています。
SNS や YouTube を使ったブランディング、販売促進、採用強化等々に多くの企業様がご興味を持たれています。そのことは弊社主催セミナーでもひしひしと伝わってきます。多くの企業様に「CEO ONLINE」を活用して頂き、動画配信による企業活動の新しい展開にお役に立てれば幸いです。

今後「CEO ONLINE」では、ご出演頂いた経営者（企業）様にお集まりいただき、新しいコミュニティ（異業種交流会）づくりを始めていきます。ご出演をきっかけに新しい出会いが生まれる、そのような場を数多く提供したいとも考えています。是非 CEO ONLINE 公式サイト https://ceo-online.jp/、YouTube チャンネル「CEO ONLINE」をご覧ください。
本日はありがとうございました。

第２回 クラブ戦略委員会議事録

とき　12 月 10 日（金）13：30
ところ　名古屋マリオットアソシアホテル
17 階「桐」
出席者　栢森、髙村、村田、岡田、三枝樹
５名（敬称略）

・会員増強について

メンバー減少に歯止めがかからず、来年からは 60 名を下回るゆえに会員増強が必須である。
しかしながら、誰でも良いというわけにいかず、
この歴史と伝統ある名古屋みなとロータリークラブに相応しい、品格ある方のみ入会していただく。
時には入会を断る事も必要と考える。

以上の事を理解していただき、メンバー各位に会員増強に協力していただく。

月	日	今後の例会予定
12	17	休会
	24	例会変更 忘年家族会 16F「アイリス」18:00
1	7	休会
	14	港友例会 17F「コスモス」
	21	卓話 17F「コスモス」
	28	例会変更 1/27（木）ガバナー公式訪問 丸の内 RC 合同　クレストンホテル
2	4	港友例会 17F「コスモス」
	11	休会
	18	Web 例会
	25	例会変更 2/26～2/27 家族旅行会（大阪）